
いつものシガーキッス

フェイカー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつものシガーキッス

【Zコード】

N7107C

【作者名】

フロイター

【あらすじ】

今まで男性経験のないキャリア〇〇」、長谷川京香はただ淡白な生活の中で何も見つけ出せずにいた。あるとき一人の男に会つ。この男の出会いが京香を変えていく。

プロローグ・変わらない生活（前書き）

暇つぶしに見てもいいえれば幸いです。

プロローグ・変わらない生活

変わらない生活の中に私は孤独さえも忘れかけていた。
騒々しい都会の昼間、昼夜問わず流れ続ける車の群れに、テールランプの残像。

一日を終えるたびに、次の日がやつてくれる。
その中、私は生きていた。

いつもの田舎と刺さるような鈍痛

週末に残ることの痛みさえも時々愛しく感じてしまつだつた。

ほのかな煙草の香り

私はゆづくじとベットから起き上がる。

重い頭を起こすと共に、乱れた髪がベットから流れ、窓に目を向け
れば冬の冷氣にさらされた日差しがブラインドから零れ出ていた。

もう朝だ。昨日は終わった。

「……痛つ」

私はゆっくりと頭に触れた。

昨日の酒が微妙に残つている。

私は重い頭支えながらベットから降りると、重い足を引きずるよう
にそのままキツチンに向かつた。

味気のない部屋。余計なものはない。

面白くない社会人だ。それが私。

シンクの蛇口を捻れば肌を刺す水が流れる

その冷たさが徐々に私の頭を現実に戻していく

「少し飲み過ぎたかしらね……」

そんな独り言を呟く

私は自嘲めいた笑みを浮かべそのままコップを手に取り水を入れた

口に含む。

食道を冷たい水が通り過ぎるたび、喉の渴きと一寸酔いはいくらく
樂になつた

「……あの糞上司、ベタベタ私に触りやがつて

シンクに手をつきながら昨日の事で思わずグチを吐く
何度もある事だが相変わらず吐き氣と寒氣がする

私は氣を紛らすよつに、キッチンの上にある煙草を手に取つた
煙草を一本取り出し、ガスコンロのノブを捻つて火を点ける

青い火が揺らめき

私は髪をかき揚げ、髪が焦げないように煙草に火を燈した

深く煙を吸い込むと、肺を犯す紫煙がほのかな痛みと共に私に安ら
ぎを与えてくれる

立ち上る紫煙を見つめながら私は、変わらない日常がまたやつてく
る事を退屈だと思う

変わらない日常

何もかもが変わらない

そんな世界で私は生きている

シンクで煙草を消すと私はいつもの準備にかかる

出勤の時間が迫つてゐる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7107c/>

いつものシガーキッス

2010年10月9日19時39分発行